

スケルトン選手

中山

英子さん(45歳)

私の50行

「やめられない。やりたい気持ちがあって、やり切れていない思いがある。まだできる」。熱い気持ちを笑顔交じりに語ってくれた。スケルトン選手として、2年後に韓国・平昌(ピョンチャ)で開催される冬季五輪に出場を目指して、競技を担当し、「競技の出会いは長野五輪。新聞記者としてそれを、競技のみに集中し切れなかった」と

に至り、体験したい気持ちが芽生えた。

トリノ以降、練習を含

クスして感じること」。



た選手ではないと自覚はあつたが、チヤホヤもされ、競技のみに集中し切れなかった」と滑りの極意は「リラックスして感じること」。

オリンピアンでありながら自らは文科系と称する

彼女のキャンパスに、スケルトンという筆で何が

描かれるのか、期待が高まる。

最高のパフォーマンスを求めて

初滑りの感想は「面白かった。はまつた」。諫トレースが募り、体調も崩した。が、1年前に平昌

高のパフォーマンスを出せるようになつた」と充実感がうかがえる。